

国官技第 501 号
令和 2 年 3 月 31 日

各地方整備局 企画部長
北海道開発局 事業振興部長

大臣官房 技術調査課長
(公印省略)

国土交通省所管事業の執行における交通誘導警備員の円滑な確保等について

公共工事の施工にあたっては、技術者・技能労働者の確保や資機材の調達に加え、交通誘導警備の適切な実施が重要であるが、昨今の自然災害の頻発化・激甚化等により、地域や時期によっては交通誘導警備員の確保が、円滑な施工上の課題となっている。

国土交通省所管事業の執行については、「国土交通省所管事業の執行における円滑な発注及び施工体制の確保に向けた具体的対策について(改正)」(令和 2 年 1 月 31 日付け、国官技第 323 号ほか)によることとするほか、交通誘導警備員の円滑な確保等については、新型コロナウイルス感染症による交通誘導警備員の需給への影響を踏まえつつ、下記に定めるところによることとする。

なお、本通知の内容については、警察庁から各都道府県警察あてに別添のとおり通知されているので、あわせて通知する。

記

- 遠隔地からの交通誘導警備員確保等に要する経費の計上
 - ・交通誘導警備員を遠隔地から確保する必要があると認められる場合には、必要な労務管理費・交通費・宿泊費等を設計変更の対象とする旨を入札公告時に明示し、適切に設計変更を行う。
 - ・施工箇所が山間地等にあるため、工事に従事する者の現場への移動時間を考慮したときに、1 日 8 時間の作業時間を確保することが困難と認められる場合は、労務費を設計変更の対象とする旨を入札公告時に明示し、適切に設計変更を行う。

○ 工事中信号機の活用

- ・交通量が少ない場合や見通しが良い場合等であって交通の安全と円滑が確保されると認められるときには、工事中信号機の活用を検討する。

○ 交通誘導警備員対策協議会の設置等

- ・工事の発注者、建設業関係団体、警備業関係団体、警察当局等から構成される交通誘導警備員対策協議会の場などを活用し、今後の発注見通しを踏まえた交通誘導警備員の過不足状況に関するきめ細かな把握や、交通誘導警備員の不足が顕在化又は懸念される場合の対策として、いわゆる自家警備を行う場合の条件整理を行うなど、地域ごとの課題を踏まえた対策を講じる。
- ・交通誘導警備員の不足が顕在化又は懸念される場合の対策の例として挙げている「いわゆる自家警備を行う場合の条件整理」については、地域の実情に応じて検討されるものではあるが、警備業者が交通誘導警備員不足により交通誘導警備業務を受注することができない場合であって工事の安全上支障がない場合に限るなどといったやむを得ない場合における安全性を確保した運用を想定している。

いわゆる自家警備の配置を検討する場合には、警備業者やその関係団体、警察当局等とも連携のうえで、交通誘導警備業務を含む建設工事の安全が十分に確保されるよう、現場条件や資格要件等の配置条件の整理を行われたい。

以上

